

〔奨励部門〕

1. 氏名 なかむら ひろみね 中村 弘峰 (人形師)
2. 年齢 36歳 ※R5.1.11現在
3. 住所 福岡市



【経歴及び選考理由】

大正6年創業の老舗博多人形「中村人形」の4代目人形師。

平成23年、東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻を修了後、「中村人形」3代目人形師である父、中村信喬氏（第14回（平成18年）福岡県文化賞創造部門受賞者）に師事。伝統の技を習得しながら、太宰府天満宮干支置物の制作や博多祇園山笠土居流の昇山制作などに携わり、着実に技を磨いている。

平成25年には日本伝統工芸展に初入選し、日本工芸会新人賞を受賞。その後、平成26年、平成27年と連続して西部伝統工芸展に入選。平成28年には、世界的な工芸家たちが集まった公募展「第3回金沢・世界工芸トリエンナーレ」にて優秀賞を受賞している。毎年継続して作品を制作・発表しつづけて数々の賞に輝いており、本県においても、「九州芸文館トリエンナーレ2019」にてアーチェリー選手を模した作品「この矢はづさせ給ふな」を出展し、大賞を受賞している。

氏の作品は、「中村人形」としての伝統を受け継ぎながら、父・信喬氏とは異なる独自性を発揮している。特に野球選手などの「アスリートシリーズ」は、伝統的な日本人形のあり方をアップデートした斬新な作品として、高い評価を受けている。

氏は「もしも江戸時代の腕の良い人形師が現代にタイムスリップしてきたら」というコンセプトの中で作品に取り組んでおり、「人形は『人』の祈りを『形』にしたもの」という解釈の中で、数々の魅力あふれる作品を生み出し、新たな挑戦を続けている。

このような氏の活動は、本県を代表する伝統的工芸品である博多人形の普及・継承に大きく貢献するもので、今後の活躍が大いに期待される。



作品名 「礼砲」(左)
「不動如山」(右)



作品名 「この矢はづさせ給ふな」

【主な受賞歴】

- 第60回日本伝統工芸展 初入選 新人賞（平成25年）
- 第49回西部伝統工芸展 初入選 日本工芸会賞（平成26年）
- 第50回西部伝統工芸展 福岡市長賞（平成27年）
- 第3回金沢・世界工芸トリエンナーレ コンペティション部門 優秀賞（平成28年）
- 伝統工芸創作人形展 in 金沢 中村記念美術館賞（平成29年）
- 第54回西部伝統工芸展 日本工芸会賞（令和元年）
- 第55回西部伝統工芸展 日本工芸会賞（令和2年）
- 九州芸文館トリエンナーレ2019 大賞（令和2年）

(参考) 奨励部門：個性的・創造的な創作活動を行い、かつ、将来一層の活躍が期待されるもの。